



ある日突然、歯が「キーンン！」と痛みが走る。冷たいものがしみる。歯を歯ブラシで磨くと痛い。こんな症状ありませんか。これは「知覚過敏」かもしれません。

「知覚過敏」とはどういう病気なのでしょう。

○知覚過敏とは何？ ○知覚過敏の症状 ○知覚過敏の原因 ○知覚過敏の治療法などについてお話していきます。

知覚過敏とは何？

●知覚過敏とは、表面のエナメル質が削られ、象牙質が露出したところに外から、冷たいものやブラッシングなど刺激が加わり、しみるような痛みを感じるものです。

知覚過敏の症状

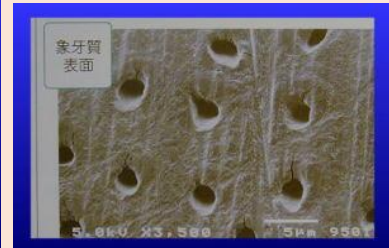
●知覚過敏の症状は様々です。冷たいものが歯にしみる。歯ブラシでブラッシングしたとき、痛い。かぜにしみる。

知覚過敏の原因

●知覚過敏の原因は、間違ったブラッシング（特に強くごしごしと歯ブラシをする人）、歯ぎしり、くいしばり、歯周病、虫歯、加齢など様々です。

知覚過敏の治療法

●症状が軽い場合は、知覚過敏の症状を抑える歯磨き剤（シュミテクトやシステムセンシティブ）を使用してもらいます。エナメル質が削られ、しみる痛みが強い場合は知覚過敏のお薬を塗ったり、プラスチック素材のレジン詰めたりします。それでも痛みが治まらないときは、最悪神経を取ることもあります。



歯は、表面がエナメル質という硬い組織に覆われています。中は象牙質、神経（歯髄）が通っています。ところが根の表面にはエナメル質がないため、根が歯肉から露出すると象牙質に様々な刺激が直接伝わり、それが歯の神経まで届いてしみるのです。

象牙質の表面には、無数の小さな穴（象牙細管）があいており、ここから刺激が神経に伝わり、しみる症状が現れます。

○次の人は注意が必要です。

- ① **露出した歯根の表面が食べかす（プラーク）で汚れている。**
→食べかす（プラーク）が出す細菌物質で歯がしみる。
対策：適度なブラッシングで食べかすをためない。歯を清潔に保つ。
- ② **ブラッシングの力が強く、ごしごし歯を磨きすぎる。**
→歯の表面のエナメル質が削られて、象牙細管から刺激が加わり、歯がしみる。
対策：歯ブラシのブラッシングの力を入れすぎない。
- ③ **歯ぎしりやくいしばりをする。**
→歯ぎしり、くいしばりの力がエナメル質に加わり、表面が削られる。
対策：歯ぎしり、くいしばりのコントロールをする。ひどい場合はマウスピースを入れる。

軽症の場合

・たまにしみる



知覚過敏用歯磨き剤

やや重症の場合

・頻繁にしみる



知覚過敏の薬



レジン充填

重症の場合

・頻繁にしみて痛くて我慢できない。



神経の処置

ご意見、感想などありましたら、気軽にスタッフにお尋ねください。右覧に感想を書き、受付まで持ってきていただいた患者様には歯ブラシ1本をプレゼントします。（おひとり様1本まで）また、下記メールアドレスでも受け付けます。
Mail:info@kourinshika.com 担当：三輪恒幸
発行元 光輪歯科
名古屋市北区大曾根4-20-31
TEL:052-914-8148

氏名

（イニシャル可）

Blank lines for entering name and initials.